



鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成29年度 第2号(5月20日発行)

甲南高校で学ぶ意味

新学年がスタートして1か月半余り。4月は、甲鶴戦で6連覇を果たしたことや1日遠足でクラスの親睦を深めることができたことなど楽しい行事が続いたことと思います。GWも過ぎた5月は、いよいよインターハイ予選もスタート。3年生にとっては、**部活動の集大成の時期**となってきました。一方で、5月の実力考査も終わった今、学習に対してどのような気持ちを持っているのでしょうか。「あーあ終わった。」「しばらくテストから解放される。」といったところではないのでしょうか。このような時期だからこそ、今の自分の生活について考えてほしいことを書いてみたいと思います。

「**あなたは、なぜ甲南高校に入学したのですか。**」という問いに対して、どのように答えますか。もちろん答えは様々でしょうが、多かれ少なかれ「**大学などへの進学を考えて。**」と答えると思います。そのためには、勉強をして、センター試験をはじめとする大学入試に合格しなければならないことも分かっているでしょう。でも多くの人が、「**なぜ、勉強をしなければならないの。**」という疑問を一度は持ったことがあるでしょう。あなた方の同級生の中には、職業系の高校に進学し、その後就職する者もいます。例えば、数学のベクトルや物理基礎などを勉強せずにその後の人生を生きていく者もいます。つまり、**勉強せずとも生きていくことは可能です。**実際、高校で学んでいることのほとんどが、実生活で直接的に使うことはないと思います。そのような時、あなた方は**勉強することの意味について疑問に思い、「しなくてもいいじゃない。」という自分への言い訳を始めたこと**があるでしょう。

私もそのような思いをした時に、ある心理学者が述べた「**人間の行動は、3つの要因から決定づけられる。**」という話を知り、感銘を受けました。それは人間の行動が、**①快・不快、②得・損、③正・不正**の三つで説明できるというものである。その中で**①は、生まれた時からつまり赤ちゃんの段階からもっているものであるが、②と③については、生まれてからの育ってきた環境、習慣や教育で身に付くものである。**そこで、今の自分の行動を振り返ってほしい。自分の行動の決定が、快・不快や得・損ということだけで判断していませんか。もちろん快・不快や得・損も大事なことなので否定はしません。でも、且先の快・不快や得・損ということだけで判断し、行動していないかを考えてほしい。「不快な事だけど、先のことを考えると快や得なことなのでやろう。」**それを判断するのは、育ってきた環境、習慣や教育などを通してつまり勉強や学習を通して磨かれていくことです。言い換えると、勉強や学習することは、あなた方の今後の生き方を決めていくものになるのです。**

話は変わりますが、昨年6月公職選挙法が改正され、**選挙権が18歳に引き下げられたこと**は、みんなも知っていることでしょうし、三年生の中にはすでに18歳に達した者もいるでしょう。選挙権が与えられたということは、**大人の仲間入りをしたということ**です。大人になるということは、**自らのことよりも周りや未来にとって大切なことを考えることが求められます。**将来の日本や世界がどのようなようになっていくべきなのか。今の社会は、情報が簡単に手に入る(氾濫している)世の中でもあります。それぞれが、**何をもって正(真実)とするのか判断することが難しい時代であるとも言えます。自分にとって、家族にとって、社会全体にとっての正とは何か。**それを考えていくこと・自分自身に求めていくためには、**考える経験・悩む経験＝勉強や学習**を多く重ねていないと判断できないし、気づけない。

今、あなた方が甲南高校で学んでいる国・地公・数・理・英の5教科から芸術・体育・家庭などのさまざまな教科は、まさしく考える材料となっており、あなた方が今後出会う様々な課題を克服する礎となっていくものです。加えて本校のW-KIでは、「人口問題に起因する諸問題の解決」を目指して、課題研究に取り組んでいます。これもまさしく自分にとって、家族にとって、社会全体にとっての快・得・正を考える機会なのです。今日本で人口減少を止めることはおそらく不可能です。しかし、今起こっている諸問題についての現状把握する中で、課題となっていることを知り、先行研究を調べていく中から新たな解決策を提案し、その問題点を社会全体で共有し、よりよい社会にしていくことを目指す。

自ら課題を設定し、課題解決のための提案をするには、
もっと **考える経験・悩む経験＝勉強や学習** が必要なのです。

あなた方が学んでいる甲南高校という場所は、他の学校では経験のできないことができる学校だということを理解し、それに誇りを持ってもらいたいです。三年間しかない甲南高校での生活。残された時間は、それぞれですが、**恵まれた環境を最大限に生かした生活**になることを期待したいです。

【SGH通信】

「甲南高校って何かやっているんでしょ？」

皆さんは友達や、保護者、知り合い等からSGHのことを聞かれるのではないのでしょうか。そこで、今日はその返答例を考えてみました！

- 1 SGHは、私たち高校生の20年後の将来を見据えて行っている。
- 2 SGHは、大学や社会人になった時に様々な場面で活躍できるように課題研究をとおして自分を鍛える取り組みである。
- 3 SGH校は、全国に123校ある。鹿児島では甲南高校1校、九州は14校が文部科学省より指定されている。
- 4 課題研究の発表や研究の一環として、文部科学省の補助金と同窓会の支援をもらって1年生が台湾、2年生が英国で海外研修を行っている。

3期生学び台湾保護者説明会を開催しました



4月24日（月）17:00から二甲記念館で、台湾海外研修に興味関心のある生徒と保護者約210人が集まりました。1Fのホールがいっぱいの中、担当の先生から「学び台湾」の目的や日程、選考方法について説明がありました。会の最後では複数の生徒保護者から質問があり、昨年以上に1年生の関心が高まっていることが感じられました。



SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

【読書のすすめ】 今月のこれを読め！

『それでも日本人は、「戦争」を選んだ』 加藤 陽子著

歴史学者の著者が、中高生を対象におこなった集中講義の内容をもとにまとめた一冊。なぜ、あの戦争を避けることは出来なかったのか。鋭い中高生の質問と膨大な資料、そして魅力的な図解が、混沌とした現代社会に生きるわたしたちも多くのことを考えさせてくれます。併せて同じ著者の『戦争まで』という本もおすすめです。